

■ 調査・分析ツールの概要について



■ 本調査の概要について

- ・ 調査期間: 2021年9月10日～9月25日の任意の4日間(平日2日・休日2日)
- ・ 対象: 20～60代男女(1カ月以内に半数以上の日にちでお茶を自分で淹れて飲んでいる人)I
- ・ 調査サンプル数: 20名(男女・年齢／均等割付)
- ・ 回答形式: 自記式

■ 本調査の目的

目的は、「お茶を淹れて飲む」オケージョンを一人に対して立体的に捉える

■ 本調査の項目

朝・午前・昼・午後・夕・夜の各時間帯における飲用機会の内容

- その際、飲んだお茶の種類
- その際の気分
- その際の気分を踏まえ、代替可能な飲料

利用の背景による差

ミネラルウォーターの飲用により、お茶の飲用は変わる可能性大
ミネラルウォーターを飲む家庭では、お茶の飲用機会は減り、オケージョンも限定される？

男女差

男性は年齢が上でもお茶を入れることは面倒になのか広がり限定的
女性の方がお茶を入れる抵抗感は低いようだが、年齢が上の層でも茶葉の処理が面倒という層が存在しそう

朝

すっきりしたい、気分転換したいというニーズに対応。コーヒー・水が代替？

午前中

場所を移動し、また、気分転換したいというニーズに対応

昼

ランチの需要と合わせて飲用。水と並んで飲用機会多い。コーヒーは食後イメージ
食事に邪魔しない存在としての価値（中国茶・ブレンド茶は一部で重なり）

午後（おやつ時間）

おやつのお供として存在。紅茶・ブレンド茶・フレーバーティーが代替
リラックスがメインであるがチャージ、リフレッシュの側面もあり（リラックスではお茶強い）

夕

食事と合わせて飲用。水も一定飲用されているがお茶も強い時間帯
ブレンド茶・麦茶が代替。麦茶と水は近く、ブレンド茶はやや異なる？

深夜

カフェインイメージのためか飲用機会少ない
他時間のリラックス文脈では飲用されるが、就寝前にはハーブティー、ブレンド茶などと差

のどをうるおす

水・麦茶と並んで一定の飲用機会は得ている
ウーロン茶、中国茶とはやや異なる捉え方？

リラックス

紅茶・ハーブティー・ブレンド茶が代替。
お茶はリラックスの文脈では午前～午後でやや時間帯の広がり狭い？
一息つくのが目的？

すっきりしたい
(リフレッシュ)

お茶はすっきりするときの飲用では他よりもアドバンテージあり
口をすっきりさせたい、消毒・殺菌などの衛生的な視点でも特徴

味わいたい

お茶を味わうということがあまり広がっていない？
コーヒー・ハーブティー・フレーバーティーのような楽しむという訴求が出来ていない？

お茶の飲用実態 ～マインド～

すっきりしたい
(リフレッシュ)

気分転換したい

くつろぎたい
(リラックス)

団らんのお供に

食事と共に
(食事を邪魔しない)

口をすっきりさせたい
(食後のスッキリ感)

味わいたい
(お茶を楽しみたい)

のどをうるおしたい

健康

消毒・殺菌・消臭

美肌
(ビタミン)

低カロリー